

減災のための目標(案)について

番匠川の主な特徴

- 番匠川上流部は急勾配であり、洪水による水位の上昇が早いことに加え、堤防未整備箇所も残っている。また中上流部は近年の主要な洪水において家屋や避難路の浸水被害が生じている。
- 番匠川下流部は、人口及び資産が集中する佐伯市街部が位置しており、堤防はほぼ完成しているものの、拡散型の氾濫形態を呈しており、ひとたび堤防が決壊すると甚大な浸水被害が発生する恐れがある。
- 南海トラフ巨大地震等による津波被害が想定されており、住民の防災に対する意識は高まりつつある一方、近年、大規模な洪水氾濫被害を経験していないため、洪水に対する防災意識の低下が懸念される。

減災のための目標(案)

■5年間で達成すべき目標

番匠川の大規模水害に対し、「迅速な避難行動」と、「社会経済被害の最小化」を目指す

※大規模水害・・・想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水氾濫による被害

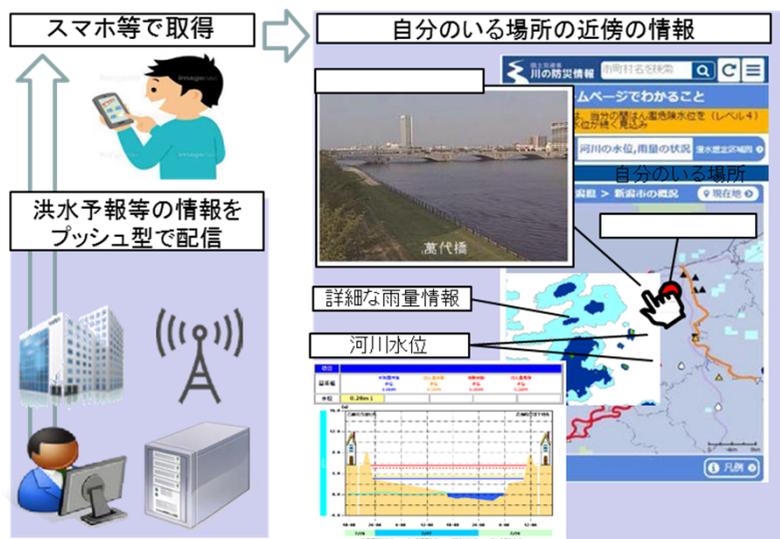
■上記目標達成に向けた3本柱の取組

河川管理者が実施する堤防整備等の洪水を河川内で安全に流す対策に加え、以下の取組を実施。

- ①急激な水位上昇などに対する迅速な避難行動のための、防災情報提供や防災教育に関する取組
- ②氾濫被害の最小化に向けた施設整備の取組
- ③確実な避難行動と社会経済被害の最小化のための、的確な水防活動に関する取組

目標達成に向けた主な取組内容(例)

○避難行動のきっかけとなる情報提供

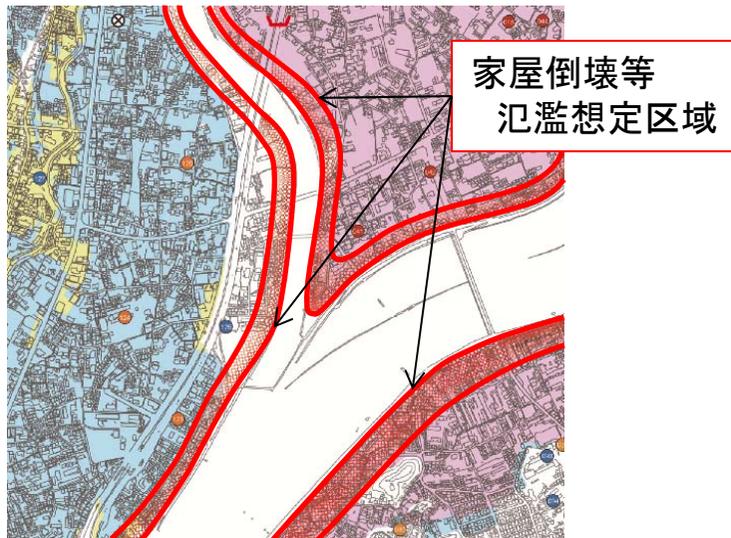


○学校などを対象とした防災教育の実施



目標達成に向けた主な取組内容(例)

○ハザードマップの改良と周知



想定最大降雨による洪水ハザードマップの作成

○タイムラインに基づいた情報伝達訓練や避難訓練の実施



目標達成に向けた主な取組内容(例)

○水防体制強化のため、水害リスクの高い箇所の共同点検や、水防訓練の実施



○氾濫水を迅速に排水するため、排水訓練の実施

